

## 6 新見駅周辺の課題整理（求められる対応）

前章までで整理した現状や課題を踏まえ、本エリアのまちづくりにおいて求められる対応を以下に整理します。

### ① JR新見駅周辺における拠点形成とにぎわいづくり

- ・本エリアでは、空き家や空き店舗、空き地の増加や居住人口の減少が進み、駅利用者の減少や商業構造の変化に影響され、地域の活力が低下しています。本市の玄関口として、JR新見駅周辺のにぎわいを生み出し、拠点性を高める取組が必要です。

### ② バリアフリー化等を含めた公的施設の継続的な運営

- ・JR新見駅は、1日700人以上（2019年時点）が乗車する要衝駅ですが、連絡通路の地下道などは、バリアフリー未対応になっています。また、新見美術館についても、バリアフリー化、搬入路の確保、建物の老朽化による建替等の課題を抱えています。いずれの施設においても、将来にわたって運営を続けていくための方策を検討していく必要があります。

### ③ 駅周辺エリア内のネットワーク強化と駅へのアクセス利便性向上

- ・JR新見駅の南北をつなぐアクセス路は限定されています。また、歩行者動線のネットワークが不十分であり、本エリア内を結ぶ、より快適で安全なアクセス路が必要です。
- ・公共交通の充実やレンタサイクルなどのモビリティの活用により、本エリアへのアクセスの利便性向上が必要です。

### ④ 観光客等来訪者への分かりやすい情報提供とおもてなし

- ・JR新見駅や新見美術館へ訪れた人が、周辺のスポットを周遊してもらえるように、分かりやすい案内板や情報提供が必要です。
- ・来訪者が立ち寄れる休憩所や、新見の食や文化、特産品などを楽しむことができるおもてなしの空間の整備が必要です。



## ⑤ 若者や子育て世代から高齢者までが気軽に集い楽しめる場の整備

- ・学生や親子連れ、そして高齢者や子どもなど、誰もがそれぞれ気軽に立ち寄れ、交流でき、楽しめる場が必要です。

## ⑥ 駅周辺において快適で有意義な待ち時間を過ごせる滞留空間の確保

- ・JR新見駅周辺には、休憩所など、電車やバスの待ち時間を過ごせる場所が十分でないことがから、待ち時間などを快適で有意義に過ごせる滞留空間の確保が必要です。

## ⑦ 既存ストックを用いたまちの新たなコンテンツづくり

- ・JR新見駅周辺には、空き家や空き地等の既存ストックが多数存在します。それらを有効に利活用するため、ニーズのある用途にリノベーションするなどして、まちの新たなコンテンツを作っていくことが必要です。

## ⑧ 学生をはじめ地域の担い手となる人材の豊富さを活かした取組

- ・本市では、新見公立大学生をはじめ、高校生からシニア層まで、多様な人材が活躍しています。本エリアのまちづくりにおいても、若者をはじめとした地域住民に積極的に参画してもらうための仕掛けづくりが必要です。

## ⑨ 自然資源の活用と災害対策

- ・本エリアには、高梁川が流れしており、その環境を楽しむための親水公園が整備されています。川や背景にある山など、駅と近接する自然資源を活かしたまちづくりの取組が必要です。
- ・近年の豪雨被害の状況を鑑み、自然災害時を考慮した安全確保の方策が必要です。